東京講演会を開催

奈良文化財研究所では、これまでに多くの成果をあげてきましたが、その中でも重要な業績の一つが、発掘した古代の遺跡や遺構がいつのものなのかをあきらかにするための編年研究です。

奈文研は、60年余りにわたって平城京・藤原京という都城や飛鳥の遺跡を中心に精緻な発掘調査を継続しておこなっています。歴代の研究員は、それらの調査で出土した膨大な土器や瓦の特徴の変化を詳細に検討するとともに、木簡等の文字資料や銭貨を検討し、さらに文献記録も照合することで、年代を測るための「ものさし」を、より精緻なものに仕上げることに大きな努力を払ってきました。そして、今では、奈文研の作った「ものさし」は、全国各地の古代の遺跡や遺構の年代を決定するために活用されています。

また、このようにオーソドックスな考古学的手法で「ものさし」を作り上げるいっぽうで、木の年輪幅がそれぞれの年の気候や環境に左右されることに着目した、年輪年代法という自然科学的な年代決定法をわが国で初めて導入し、従来の弥生時代の年代観を大きく書き換える等の画期的な成果を上げています。

今回の特別講演会では、奈文研が古代の遺跡や遺物の年代を決定するために、これまでにどのような研究をしてきたのか、研究の最前線では、今、どのような視点でどのような問題を解決しようとしているのか、そして、土器・瓦・木簡等の研究が互いにどのように補完しあって成果を上げているのかを、6人の研究員が奈文研の研究の舞台裏も交えて話しました。

当日の来場者は480人で、メモを取りながら熱心に聴き入る方も多く見受けられました。

（連携推進課長　田中 康成）

講演会風景（東京会場）

東院庭園観月会2014

9月27日に「東院庭園観月会2014」を催しました。昨年11月に続いての2回目となります。

今年も、奈良パークホテルの協力を得て、宮廷料理「天平の宴」の品の中から、蘇（乳製品）や黒米・赤米、楚割（魚肉を細長く切って干したもの）、脯穴（干し肉）に白酒（にごり酒）を用意しました。

当日は、松村所長の挨拶に始まり、第1部は、ゲストの奈良大学教授上野誠先生の著書である『小さな恋の万葉集』から撰んだ5首を、先生にご解説いただくとともに、所長の飛び入り参加を得て、考古学と恋の歌という対談も実現しました。また、馬場主任研究員が古代食について、小野副所長が東院庭園の発掘から整備についてのミニ講演をおこないました。

第2部では天平衣装のファッションショーと雅楽の調べでおもてなしをしました。ファッションショーは、天平3年（731）に時代を設定し、聖武天皇・光明皇后・藤原麻呂・坂上郎女の登場に始まり、命婦4名をしたがえた阿部内親王が最後を飾りました。雅楽は雅楽演奏家の太田豊氏ほか4名の方々に、雅楽寮の官人に扮してもらい、太平楽等4曲を演奏していただきました。

今年は、開催を9月としたことで、屋外イベントにふさわしい気候で皆様に楽しんでいただけたと思います。来年以降も、より練度の高い会を目指して準備を進めていこうと考えております。

最後になりましたが、土曜日の夜にも関わらず、多くの方々のご協力をいただいたことを、この紙面をお借りして厚く御礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

（企画調整部長　杉山 洋）

観月会衣装絵巻「天平三年の人々」